

121018 モズの高鳴き

この季節、耕作地や公園などの見晴らしの良い開けた場所では、「キーキキキキ キチキチキチ」などと聞こえる鋭い鳴き声が、繰り返し響き渡ることに気づきます。

声の主を探してみると…

木のとっぺん付近で、尾を回すように振りながら、大きな声を発している体長 20 cmほどの野鳥の姿を、比較的容易に見つけることができます。

何度か鳴いた後、少し離れた木の梢に移動して、またまた大きな声を発する、これをずっと繰り返しているのです。

これが“モズの高鳴き”と呼ばれるものなのです。

オスもメスも別々になわばりを作り、それを守るために鋭い声で鳴いています。

たとえ異性であろうとも、なわばりへの侵入は許しません。

餌の少なくなる冬に向けて、“ここは自分の食糧庫なのだ”ということを高らかに宣言しているのでしょうね。

さてこの鳥、漢字では「百舌鳥」と書くのですが、どのような理由からなのでしょう？

モズは耳にした鳥の声を覚えて、その声をまねて囀ることができるのです。

何種類もの鳴き真似ができることから「百舌」という字があてられたようです。

また、この鳥、体のわりに頭が大きいところが“かわいらしい”のですが、実は“小さな猛禽”と言われるほどの獰猛さも持ち合わせているのです。

普段はバッタやコオロギ、トカゲやカエルなどを食べているのですが、ときにはネズミやメジロ、スズメなども捕食するのですから…

そして、これらの獲物を木の枝先などに挿しておく習性があり、これを“はやにえ”と呼んでいます。

後で食べるつもりなのでしょうが、結構いつまでも残ったままで、やがて干からびてしまったものもよく見かけます。

もしかしたら“なわばり”を誇示するための行為なのかも知れませんね…

以上のように、外見は頭でっかちで愛らしいこの鳥も、いろいろな生きものたちに恐れられている、少々“怖い”鳥なのだと言えそうです。

でも…

妥協を許さないような厳しい性格かと思えば、カッコウに託卵されてしまうというドジな一面も持ち合わせているのです。

さらに…

繁殖期間中、オスがしばしばメスに求愛給餌している姿を見るにつけ、仲よし夫婦の典型のように思うのですが、最近のDNA分析によれば、1つの巣の中でも1割程度の割合で他のオスの血を受けているヒナがいるそうなのです。

つまり、メスの浮気の動かぬ証拠が…

◆写真①～⑤： モズのメス

◇岬町のビオトープ再生地の周辺で撮影したものです。

◇木の梢やスプリンクラーの上に止まって、高鳴きを繰り返していました。

◆写真⑥・⑦： モズのオス

◇南河内の里山で撮影しました。

◇電線の上で高鳴き！

◆写真⑧： モズのオス

◇去年の冬に万博記念公園で撮影したものです。

◇ワシタカのようなカギ型の嘴が、“小さな猛禽類”たる所以です。















